

光森自為雄

堅固九陣地攻撃戦例

日露戦争  
ニ於ケル  
南山陣地ノ攻撃

1392

目次

第一章 一般、情況

第二章 攻撃、概要

  第一節 攻撃計畫、策定

  第二節 攻撃經過、概要

第三章 第一師團戰鬥經過、概要

  第一節 攻撃地區、地形、概要

  第二節 攻撃地區、敵、配備

  第三節 攻撃部署

  第四節 展開

  第五節 砲戰、開始

  第六節 攻撃準備

  第七節 砲兵、射擊

  第八節 準備隊、戰鬥加入

  第九節 砲兵、協力

  第十節 突撃

    其一 突撃準備

    其二 突撃部署

    其三 隣接部隊、情況

    其四 援護射撃部隊及砲兵、援助

    其五 突撃實行

  第十一節 南山、占領

  第十二節 師團戰鬥一般、教訓

第四章 第四師團、突入

  第一節 突入前、情況

  第二節 突撃準備

  第三節 突入

第五章 結論

日露戦争  
ニ於ケル

南山陣地、攻撃

第一章 一般の情况

南山陣地攻撃前一般の情况並該陣地攻撃の動機大正十三年、奇戦

術學教程附録第三戰史其明治三十七八年戰役經過概要四

一乃至四頁、如シ

當時第二軍司令官奧大將ハ隸下第一第三第四師團ヲ以テ五月五日以來塩大嶺附近ニ上陸シ後逐次地歩ヲ獲得シ北方大沙河普蘭店線ニ南方十三里台子ノ敵ヲ驅逐シ金州東北方高地線ヲ占領シ金州半島咽喉ヲ扼ス爾來大本營ト数次ノ折衝ヲ重ネタル後五月十九日速ニ南山陣地ヲ攻略スルニ決シ此日上陸ヲ開始セシ第一五師團ヲ以テ大沙河並蘭店線ヲ占領シテ北方ニ對セシメ五月二十三日迄ニ第一第四師團ヲ以テ十三里台子西方高地附近ニ第三師團又砲兵第一旅團ノ主力ヲ以テ寨子河附近ニ開進ス此日迄ニ軍司令官ハ諸情報依リ大要ノ情况ヲ知ル

旅順守兵六スレテリ將軍赫下步兵兵第四第七師團三其第  
四師團大部南山附近ニリ其配置左ノ如シ

東胆兵第五聯隊(千人)南山附近 同第十三聯隊(千人)大連湾沿岸

同第十四聯隊(千人) 大連 同第十六聯隊(一部)近後方地区

二南山六八座ノ砲台三個ノ堡壘及散兵壕ヲ有シ其東麓閣家屯  
附近ヨリ南山北麓ヲ經テ蘇家屯東北方約千米迄ニ帶ニ鉄條  
網アリ是ヨリ左翼ニ防禦工事ヲ見ス

山頂ニ探照燈アリ

三閣家屯東南新家屯北方土壁及小趙家屯附近ニ多少ノ歩兵

リ入金州城内ニ多クモ歩兵ニ中隊騎兵若干及機關砲アリ其東

北西門内ニ積ニテ土ヲ堆積シマリ爲ニ城門ヲ破壊スルニ尙進入ニ難シ

四和尙島ニ重砲八門アリテ海ニ面ス但具若干門東北方馬家屯附近

ヲ射撃スルヲ得ヘシ

五敵砲種八砲彈ノ破片ニハルニ二十種砲十五種十半加農八種六

加西辰七種六速射砲等ナルカ如シ

附言

皆當時於九露露軍配備及陣地施設附録第一ノ如シ

第二章 攻撃ノ概要

第一節 攻撃計画ノ策定

軍司令官ハ各部隊特ニ第四師団連日行動ヲ為疲勞甚キ  
ヲ察シ二十四日諸隊ヲ休養ニ二十五日拂曉攻撃ヲセトセリ然レ  
ニ二十三日午前聯合艦隊司令官ヨリ艦隊ハ大連灣ヲ攻撃ニ策定  
シ二十五日午後兩日砲艦四水雷艦隊一ヲ金州灣ニ派遣シ南山  
ノ敵艦ヲ砲撃セシトト通報ニ接シ軍攻撃ヲ二十六日ニ延期ニ左  
ノ要旨ヲ攻撃計画要領策定ニ二十四日午後時ヲ命令セリ

南山攻撃計画要領

第一期

一 各師団ハ夜暗ニ來ニ運動ヲ起シ各一小部隊ヲ以テ二十五日午前

三時三十分ヲ期シ第一師団ノモハ金山州東北方五百米附近ヨリ  
 背金山附近ヲ全テ後尾東方高地附近ニ亘ル線第四師団ノモ  
 ハ第一師団ノ右翼ニ連繫シ赤子家屯附近ニ亘ル線第三師団ハ  
 王家甸子附近ヲ占領セシメ主力ハ南山ニ在ル敵砲火ヲ害マ蒙ラ  
 先地志ニ位置シ前進準備ニ在リ但第一師団ノ歩兵一聯隊ヲ  
 欠キ野戰砲兵第十三聯隊ヲ第四師團ニ配屬ス  
 六野戰砲兵第一旅団同第十三聯隊ハ赤子河附近ニ在リ前進  
 準備ヲ整正ス  
 三歩兵第十三聯隊ハ二十五日午前三時三十分ハ房身ニ於テ軍總  
 豫備トナル

第二期

谷圍隊ハ第一期ノ安勢ニ在リテ艦隊ノ砲撃ヲ待ツ  
 五一部砲兵ハ金山州城ヲ砲撃ス  
 第三期

六第一師団ハ金州城東側ト南山東北端トノ線以東八里莊閣家

七中興ノ線以西ノ地ヨリ南山ニ向テ攻撃ヲ前進ス

七第一師団ハ第二師団ノ右翼ニ連繫シ南山西北面ニ向ヒ之ヲ包圍

スル如ク攻撃ス

同時一部ヲ以テ金州城ヲ攻略ス此攻略ハ第二期ニ行フコトアリ

八第一師団ハ第二師団ノ左翼ニ連繫シ東面ニ向ヒ之ヲ包圍スル

如ク攻撃ス

九砲兵旅団長ノ区々ニ依リ全砲兵ヲ展開シ射撃ヲ開始ス

一五軍總豫備ハ尙金山北麓ニ移ル

二第三期運動開始ハ特ニ之ヲ命ス

然ルニ二十五日豫期セル艦隊ハ午後三時三十分ニ至ルニ金州

灣ニ現出セス(海軍ハ此日薄霧アリシ為砲撃ヲ中止ス依テ

軍司令官ハ艦隊ノ協力を待ツコトナリ二十六日拂曉攻撃ヲス

ニ決シテ要旨命令ヲ下達ス

攻撃命令ノ要旨

二十五日午後  
三時半下迄

一、各師団ハ二十六日午前四時三十分ヲ期シ左ノ線ニ展開シ攻撃計

画要領第三期ニ示ス如ク攻撃ス

第一師団 金州城東南角ヨリ七里莊南方約

五百米ノ地点ニ亘ル線

第二師団 第一師団ノ右翼ニ連繫シ金州西

方無名河口ニ亘ル線

第三師団 第一師団ノ左翼ニ連繫シ吳家屯

ヲ至テ靳家屯ニ亘ル線

但第四師団ハ正子迄ニ金州城ヲ奪取ス

二、全砲兵砲兵第一旅団長ノ統一指揮下ニ午前四時三十分ヨリ

射撃ヲ開始シ歩兵前進ヲ援助ス

三、軍總隊備隊ハ午前四時三十分尙金山北麓ニ至ル

研究



南山陣地ハ日露風雲急ヲ告ケルヤ露軍ハ旅順要塞ノ前進陣地トシテ半永久的ニ施設シ天險ト相俟テ難攻ト頼ミシ所ニテ附録ニホス所並以下述ル戦場經過ニ徴スルニ之レ野戦ニ於ケル堅固ナル陣地ニ屬シ障礙物ノ破壊及側面機関ノ撲滅ニ持殊ノ顧慮ヲ要スヘキナリ

二第二軍ノ最初策定セル攻撃計画安領ハ攻撃ノ形式トシテ準備砲撃ノ後昏間前進ヲ遂行スルコトセリ之レ當時一般陣地攻撃ノ戦法トシテ先ニ対砲兵戦ニ依リ防者ノ砲兵ヲ沈黙セシメ然レ後歩兵ハ敵砲兵ノ妨害ヲ受クルコトナリ敵ニ近接スルニ在リシト偵察間敵ノ中口至加農ヲ遠巨高射撃ヲナシタル為之ヲ撲滅スルニ非レハ此間隙地ヲ前進スルニ後ニ損害ヲ受ルニ過キサルヘシトノ先入的感想軍司令部内ニ胚胎シ重砲ノ参加ナクシテハ攻撃困難ナリトノ意見ヲ生シアリニ依ル故ニ重砲兵ニ代ルヘキ海軍ノ砲撃ヲ以テ準備砲撃ヲナシ其効果ヲ待テ歩兵ノ

前進及砲兵之展開ヲ行ハントセルナリ而シテ斯ノ如キ戦法ハ砲兵カ  
主トシテ暴露陣地ヲ台領セシ當時ノ本戦開経過カ亦ス如ク  
所謂決勝的對砲兵戦ヲ可能トシテ以テ不可ナント云モ現時  
ノ如ク砲兵ハ遮蔽偽裝ノ進歩ニ依リ對砲兵戦ヲシテ決勝的意  
義ヲミルハ多ク準備日数夥多ノ彈藥ヲ要シ野戦ニ於  
テハ殆トシテ望ミ難キト火炮威力ノ増進ハ殘存セル防者ノ一部砲兵  
ト進モ昼間暴露前進スル改者ノ歩兵ニ多ク損害ヲ與フキ  
ヲ以テ教程亦スル如ク拂曉攻撃ヲ依ルヲ有利トスヘシ  
三二十五日午後三時三十分ノ攻撃命令ハ海軍ノ砲撃期待シ難キニ  
至リシヲ以テ一般拂曉攻撃ノ方法ヲ採用スルニ至リ

### 第二節 攻撃經過概要

各師団ハ二十五日夜運動ヲ開始ス此夜雷鳴降雨道路ノ不良ト  
夜暗ノ爲運動困難ヲ極メ第一第三師団砲兵第一旅団ハ拂曉  
迄ニ豫定ノ線ヲ台領シタルモ第四師団ハ金州城ノ夜襲失敗ニ因

正山、各部隊、急遽、金州西北高地、内、退却、之隊伍、整理、之勞、  
 又、十六日拂曉、及、此間、之、師、團、之、部、隊、以、金州、城、東、門、ヲ、奪、取、  
 又、附、圖、其、二、參、照、也、  
 午前、五、時、二十、分、我、砲、兵、射、擊、之、聲、ヲ、聞、キ、テ、敵、砲、之、聲、ヲ、我、艦、隊、  
 金州、灣、ニ、現、レ、砲、擊、ス、茲、ニ、於、テ、遂、次、砲、擊、ノ、効、果、顯、レ、午、前、八、時、頃、  
 敵、砲、火、大、ニ、衰、フ、  
 軍、司、令、官、ハ、砲、兵、第、二、旅、團、長、ト、共、ニ、朝、陽、寺、高、地、ニ、在、リ、以、上、情、況、ヲ、  
 知、リ、午、前、八、時、二十、分、第、一、師、團、ニ、攻、撃、ヲ、前、進、ヲ、命、ス、先、是、敵、砲、火、ヲ、  
 漸、次、衰、フル、ヲ、知、リ、第、四、師、團、ハ、午、前、六、時、第、三、師、團、ハ、午、前、七、時、各、々、  
 攻、撃、ヲ、前、進、ス、  
 斯、ル、如、ク、ミ、テ、午、前、九、時、頃、軍、ハ、第、一、線、以、テ、概、テ、由、南、宮、窪、西、北、海、岸、  
 ヲ、リ、同、村、及、于、家、屯、金、州、停、車、場、間、家、屯、ヲ、經、テ、馬、家、屯、東、南、ニ、  
 至、ル、線、ニ、達、シ、彼、我、火、砲、益、々、激、甚、ト、ナ、レ、リ、  
 軍、司、令、官、第、一、第、三、師、團、若、戰、情、ヲ、見、テ、察、シ、軍、總、豫、備、ヲ、步、

兵第三隊隊（大隊欠）ヲ第一師團同狀隊ノ大隊ヲ第三師團ニ増  
加シテ前ト時三十分自ラ肖金山ニ至ル  
爾後各方面戦況發辰セズ殊ニ第一師團ニ初尚島東北方ニ現ル  
ニ敵砲艦一隻ヲ背射ヲ受テ情況危險状ヲ呈セシテ午後一時過敵  
艦自ラ退却スルニ及ビ漸ク苦況ヲ脱ス此頃軍ニ到着セル各師團ノ報告  
皆第一線戦況ナラケルナリ  
此日半全砲兵八砲兵第一旅團長之ヲ第一指揮スヘキ苦ナリシモ當時  
旅團長ノ統一指揮ヲ為被阻リ有クモ戰況ニ發辰ニ應ルニ適切確實  
ニ指揮不可能ナリシヲ以テ各砲兵隊ノ其方面師團長ノ要求ト自己  
ノ判断トヲ以テ砲兵陣地ヲ喪失シ步兵ニ以テ戰手ヲ援助セリ  
斯ノ如ク戦況毫毛も發辰セズ而シテ第一師團ノ彈藥漸ク缺乏ヲ告グ軍司  
官ニ其慘狀並砲兵部長ニ討シ其情況ヲ判断ヲ徵セシテ大部ノ戰艦  
ヲ中津金州地方ニ集中シ高トシ隙ニ退却スルニ可トスルニ在リシモ砲兵部長  
秘所少將軍參謀小野ヲ以テ水両方ノ敵艦ヲ追放撃統行ラシ

張軍司令官又之同之断  
 時三十分第一師ハハ難ヲ排シテ敵ヲ退セリ  
 繫之キラ命シ諸隊銳意以テ敵ヲ退セリ  
 兵攻撃ニ随伴セモ我第一師敵前  
 百米ニ於テ障碍物ト機關  
 銃掃射ノ為メ攻撃ノ意ノ如ク進歩セズ  
 午後三時四十分軍司令官ハ情況ノ変化ニ應スル為將ニ上陸中ノ  
 第十一師團長ニ電報シ上陸ニ從ヒ逐次金州ニ急行セシム  
 午後五時頃至リ砲彈將ニ長ク火戦ヲ行ハス能ハス日  
 以テ依リ軍司令官ハ損害ヲ顧ミテ歩兵ヲ以テ強襲セシム  
 然レニ第一第三師團ハ勇敵ヲ突撃シ効ヲ奏セズ現狀ヲ維持シ  
 更ニ突撃ノ時機ヲ失見ズ坐座ヲカリシカ第十一師團長ハ此命ヲ  
 全城ヲ堵シテ前進スルニ決シ艦隊及砲兵ヲ援助ヲ籍リ午後十  
 分敵前概シテ百五十米ニ達ス費時シテ敵兵稍々動搖シ須臾ニ

六

テ右ノ部共退却シテ於テ第一線表ニ来リ突撃シ其先頭  
部隊ヲ七時三十分ニ南山司令塔ヨリ偵察ス此ノ頃ヨリ敵隊動  
搖シ第一第三師団統テ敵陣ニ突入ル時既ニ雨ニ降リテ追撃ヲ新  
隊能ハストモ軍司官ニ於テ八時命令ヲ下シ各々偵察セル陣地ニ

テリテ夜ヲ徹セシム

翌二十七日早朝軍司令塔ニ戦場ヲ巡視シ南山ニ到リ中村少将ノ意  
見具申シヨリ各隊整頓シ熱中ニ未タ有力ナル部隊ヲ以テ追撃セ

サルヲ知リ中村支隊ヲ編成シ敵ヲ追撃シ南関峯ヲ偵察セシム

既戦開シ参興セシ我軍ノ兵力ハ歩兵三十一大隊九八門機関銃

四挺三三三總戦闘人員三六四。死傷將校以下四三八七。國獲ノ主

たモノ砲八二機関銃一〇小銃三六五俘虜將校以下二三三三。我

軍ノ死傷ノ多クアリシハ大本营以下聊カ意外トセシ所ナルニ我軍不

屈不撓ニ攻撃精神ヲ敵軍ニ及ホセシ影響甚クニ至リテハ茲ニ特記セ

サル可ク

第三章 第一師團戰開經過、概要  
以下軍、主攻撃地区タル第一師團ノ戦開ニ就テ研究進ムトス

第一節 攻撃地区地形ノ概況

第一師團攻撃地区タル金州東南角南山陣地東北角ヲ連ヌル  
線以東八里莊ノ間家出ヲ連ル線ノ間ハ五分一地形圖ニ依ルニ  
尙金山ヨリ前方迄ニト南山高地ノ瞰制下ニ據ルキ地物ヲキカケ  
實地ニ就テ之ヲ觀察セシテ步兵ノ攻撃前進ノ爲ニ決ニテ平坦開闢  
地ニテ即大要左ノ如シ

一、金州城ト七里莊間ノ地区

此線ハ敵陣地前約一五〇〇米ニテ線上所々墓地家屋ノ圍壁  
街道鉄道線因阜及地障アリテ此ノ部隊ノ集合ニ便ニテ拂曉  
攻撃準備線ニ通ス

二、金州南門ヨリ金州停車場ニ至ル地区

前述ノ線ヨリ五六百米前方ニテ其間掩蔽物ナキモ尙敵歩兵

有効射程外に於て前進困難ナラス

此線六所々凸道家屋ノ利用スルモノナリ若シ金州城ノ台領

容易ナリシカ此線又攻撃準備線ニ適ス

三ノ家屯附近ヨリ金州停車場西方稜線ニ至ル間ノ地区

千家屯ハ千家十六七戸ノ小村落ナルモ圍壁ヲ繞ラシ附近ニ若年ノ

揚樹緑葉ヲ有シ第四眼鏡堡攻撃ノ拠点タルニ適ス趙家樓

西方ニ間隔約一五〇米毎ニ南北ニ通スル地隙アルモ位置低ク射撃

陣地タルニ適セス

此附近一般ニ南山陣地ノ瞰制下ナルモ敵砲兵ノ死傷甚カラス

之ヲ要スルニ此地帯ハ敵ノ瞰制下ノ小銃有効射程内ナルモ平坦

闊鏡ノ如キ困難ナル攻撃地帯ニテラス

四 前述ノ線ト敵陣地間ノ地已

敵陣地前四五〇米以内ハ三十分ノ登傾斜ニシテ扱ヒキ地物

ナク中間ニ鉄條網ヲ有シ攻者ハ此地帯ニ一舉ニ前進シ敵陣ヲ奪



取スルニアラハレハ攻撃成功覚束ナシ

第二節 攻撃地区ノ敵配備

第一師団ノ攻撃地区ハ南山陣地中央地区ニシテ守兵ハベロゾル中佐ノ指揮スル東垣兵第五聯隊ノ四中队半及第八角面僅守備ノ同聯隊ノ一中隊ニシテ真ニ師団ト戦斗シ交ハ内四中队半戦斗員七四二名ナリ

第三節 攻撃部署

五月二十五日午後三時ニ於ケル軍ノ攻撃命令基ク師団攻撃部署概テ附首具テ如シ

此日戦斗ノ戦斗力ハ歩兵各聯隊戦斗参興人員二四〇〇乃至二五〇〇野戦砲兵第一聯隊同約九〇〇兵第一大隊同約六〇〇總計戦斗員一八〇〇ナリ又彈藥ハ小銃一銃二六三擧砲彈一門二五七發五内榴彈約二五發ナリ  
行動ヲ容易シラシムル為ニ背囊ヲ卸シ輕装ス

攻撃材料トシテハ步兵之中隊ニ若干ノ鉄條鉄ヲ携行セルモ又  
通信器材トシテハ師団以下電氣通信等特記スヘキモノナリ各中  
隊手旗ヲ有スルニ由ル

第四節

展開

右翼隊步兵第一旅団(步兵第一旅団第一隊)及步兵第十五旅団第三隊ハ二十五日午後九時東石門子  
出發午後十時乃至三十分金州東北方標高三ニヨリ尙金山西北  
鞍部ノ線ニ達シ次テ午前二時三十分該線出發午前三時五十分乃  
至午前六時四十分豫定ノ線(附圖第二)前六時ノ位置ニ達シ展開  
ス

此展開行動間金州城ヨリ不意ノ射撃ヲ受ケタルモ步兵第一旅団  
及步兵第一中隊砲兵第一隊ノ機宜ニ由リテ獨斷ト協同動作ヲ依  
リ同城東門ヲ爆破合領シ以テ第四師団ノ失敗ヲ償ヘリ  
左翼隊步兵第二旅団(步兵第二旅団)及步兵第三旅団ハ二十五日夜半陳家屯出發驟雨ヲ犯シ午前  
達ニ午前三時三十分豫定ノ線(附圖第三)前六時ノ位置ニ達シ展開



七ノ(射)巨砲三六(次)敵(應)射(夜)逐(火)力(集)中(移)  
動(之)撲(滅)ヲ(企)圖(シ)其(効)果(大)ニ(顯)ハ(ル)ヲ(見)タ(リ)  
午前九時十分敵砲兵沈黙ス

研究 完

短時間ニ防禦砲兵ヲ沈黙セシメタルハ砲火集中、効果偉大ナルヲ實証ニシテ露軍ノ自白ニ依ルモ之ヲ認メタリ然レトシ爾後ノ戰鬥經過ニ徴スルニ此際多大ノ彈藥ヲ消費シ爾後ノ戰鬥ニ思影響有ラズ興タルヲ考慮セハ果シテ經濟的ナリヤ否ハ疑問ナス

第六節 攻撃準備

以下右翼隊ニ就テ研究ノ歩ヲ進メントス  
右翼隊ハ午前五時三十分迄三金州城東南陽附近ヨリ南三里莊ヲ至テ其東南標高四二高地ニ亘ル間ニ攻撃陣地ヲ占領シ散兵壕ヲ構成シ砲撃ノ結果ヲ待ツ

此間歩兵第一十五聯隊ハ一小隊ヲ唐家嶺ニ派遣シ該村落ヲ圍  
 壁ヲ破壊シ前進ニ便シ且敵情ヲ偵察ス又工兵第一中隊(右翼  
 隊ニ配屬モラレ)ノ將校以下五名ハ右翼隊長ノ命令ニ依リ南  
 山方向ニ前進シ地雷ノ偵察及鉄條網ノ破壊ニ任シ第四眼鏡儀  
 前鉄條網ノ前方ニ達シ大石ヲ地上ニ投擲シ以テ地雷ノ有無ヲ檢  
 査鉄條網ノ破壊ニ努ム

研 究

工兵第一中隊ノ作候ノ障害物ニ向ツテスル前進ハ敵ノ未縮セ  
 時機不意ニ來ルニ時ハ敵陣得附近ニ近接可能ナルヲ示ス

第七節 攻撃手前進

右翼隊ハ午前八時頃敵砲火殆ク沈黙スルヲ見独斷前進  
 工兵第一中隊ハ第一聯隊ハ午前八時ニ分前進ヲ開始シ敵火  
 ヲ肩ニ進正ノ後午前九時ニ分唐家嶺東面ヲヨリ進

西北方三百米家屋線ニ達シ南山東北麓敵射撃隊  
開始ス時ニ敵銃眼ニ概リ機関銃ト共ニ猛射ニ損害勦カス  
又鉄條網被爆ノ為次死隊ヲ選抜冰遣ニタルモ成功セズ到底歩  
兵火ヲ以テ敵ヲ牽制セシムル能ハサルヲ感シ該線(敵前五百乃至三百  
ニ於テ砲火)成果ヲ待ツシ次不

研心

一 本隊隊前進ニ我砲火ヲ以テ敵砲沈黙セシムル時機ニ於テ行ハ  
レ途中若干ノ散ルヘキ地物アリシヲ以テ約一〇〇米ノ前進  
切分乃至一時二十分ヲ要セシニ又其射撃隊開始巨高モ概  
可ナリ之ヲ第四師団ノ一部カ敵ノ一部ノ側防砲火ヲ浸ケタル為  
ニ五〇〇米ノ射巨高ヲ以テ砲兵ニ對シ射撃ヲシ又他ノ一部カ全ク  
敵ニ暴露前進ニタル為陣地ニ概ル敵ニ對シ目標ヲ確認スル  
コトナク一五〇〇米ヨリ射撃ヲ開始シ為ニ前進ヲ遲緩セシニ比ス  
ルニ素ヨリ軍隊ノ素速ニ依ルモ防禦砲兵制圧及地物ノ存

在の歩兵前進ラ者ニク容易ナラシムル一例カ

二奉選抜隊ノ不成功ヲ前速ニ兵弁候ノ動作ニ対比スルニ一旦  
敵ノ注意ヲ喚起シタル場合昼刊ノ障礙物破壊ノ至難ナルヲ  
証スルモノニシテ之ヲ為砲兵火力ニ依ルル歩兵ニ特殊兵器即歩兵  
砲連撃砲爆樂充カナル機関銃彈特ニ考案セラレリ  
器材ヲ必要トスルノ話ナリ  
三以上ノ頃ニ依リ教程ニ示ス「拂曉ヨリ砲兵火力ヲ以テ敵ヲ制シ  
其ノ障礙物ヲ破壊シタル後以テ撃テテ実行スルヲ有利トスルヲ

右翼隊ノ左翼隊第一線タル歩兵第十五隊隊第一線隊ト略同  
時ニ前進ヲ開始シテ午前八時五分唐家嶺線ニ達シ射ニ高九  
。以テ射撃ヲ開始シテ午前九時五分前進ヲ開始シテ右第  
。以テ射撃ヲ開始シテ午前九時五分前進ヲ開始シテ右第  
。以テ射撃ヲ開始シテ午前九時五分前進ヲ開始シテ右第  
。以テ射撃ヲ開始シテ午前九時五分前進ヲ開始シテ右第

ニ徴スルニ要旨

敵我ヲ敵制スル堅固ナル陣地ニ我リ機関銃ヲ以テ我ヲ掃射シ  
中共其自身体ヲ現ハリス。我々唯彼ノ銃眼高シ射撃スルノ  
ニシテ我ノ前進地也。余暴露ノ情態ニ在リ然ルモ我々毫  
。以テ射撃ヲ開始シテ午前九時五分前進ヲ開始シテ右第  
。以テ射撃ヲ開始シテ午前九時五分前進ヲ開始シテ右第

研究

敵ノ突見ノ困難ニ機関銃ノ威力ト共ニ攻者ニ精神上感感作興  
ルコトヲ示スニシテ昼間攻者ノ最苦痛ト云所ナリ又攻者ハ砲兵ノ  
支援ヲクテ敵歩兵射撃ニ対シ中巨離ニ於テハ旺盛ナル志氣ヲ以テ  
前進ヲ得ルモノナルヲ證明ス

第八節 予備隊ノ戦線加入

午前九時頃師团长ハ右翼隊敵前四乃至六百米ニ達シタルヲ知リ  
陰達ニシテ予備隊歩兵第十五隊隊第三大隊ヲ左翼隊ニ増加ス

午前九時十分師団長ハ軍總予備タル歩兵第一聯隊第一大隊  
第一軍命令ニ依リ第一師団師団ノ由前前進ニ新ニ具令下ニ復帰  
セリ一キヲ知り之ヲ右翼隊長ノ令下ニ屬ス同隊隊ハ金州東南端ヨリ  
敵ハ日月ノ前前進ニ午前十時過キ家七ニ達シ第一線ニツク午前十  
時稍前右翼隊長ハ敵軍堅固ノ陣地ニ抜リ且掩蓋ニ掩護セラ  
ルカ故ニ我榴霰彈小銃彈ハ殆ト効力ニキカ如ク又敵ハ機關銃ヲ  
有スル其位置直ニ突見スルコト能ハス而シテ前進ヲ待テ掃射シ我  
動煩洵難ナリノ報告ヲ呈ス

第九節

砲兵ノ協力

午前八時師団長ハ砲兵第一聯隊ニ七里庄西方畑地ニ陣地ニ交  
換ヲ仰シ砲兵第一聯隊ハ之ヲ準備ニ着手ス  
砲兵第一聯隊前線砲隊開始シタル如ク先ツ逐次火力集中ニ依  
リ敵砲兵ノ撲滅ヲ図リテ午前八時二十分歩兵前線ヲ開始セルヲ  
以テ歩兵前線ヲ妨害スル敵砲兵ノ制ヲ以テ努力シ午前九時十分敵砲兵



兵隊は射撃の練習を兼ねて、時射撃を中止せしめ、同二十分間は敵を  
 追撃せしむ。射撃は、其後、兵隊は午前七時半過ぎ、歩兵六隊は  
 追撃せしむ。見敵は猛射を第一大隊の午前七時より主力を以て第四隊  
 鏡は射撃を中止し、歩兵六隊の敵前より、第一連とタルモ實際は未だ達  
 せしめ、未だ突撃を實施せし能ハル他、以て各中隊十五分、急射を以  
 て突撃を誘起せしめ、然ルニ尚歩兵突撃の景況は、以て快  
 隊長は、第四中隊に命じ、榴弾射撃をラナリ、同中隊は、又ラ得しモ攻撃  
 歩兵は、危険ナリ、射撃を中止せしむ。同年砲兵第一隊は、敵機関  
 銃及び歩兵ヲ猛射し、我歩兵ヲ援助せしむ。榴霰弾ハ其効果充分  
 ならず、依テ榴弾ヲ使用セリ。

次ニ午後、時四十五分、砲兵旅団長ヨリ陣地を交換し、命ヲ受ケ、午  
 後一時乃至同一時、過間ニ第一大隊ノ順序ニ逐次七里莊附近ニ  
 陣地ヲ交換ス。

研 究



一、件ノ暴露セルモノナリ之レ步兵カ常ニ自己ノ位置ヲ砲兵ニ通報スル  
ニ必要スル一実証ナリ

三、此ノ陸地表換ノ時機ハ幸ニミテ歩兵ノ静穏期ナリシヲ以テ夫  
レ不利ナカリシモノ又歩砲間ニ連繫ナク実施セラレタルモノニシテ  
其ノ時機若干遷延セ方恰モ歩兵ノ第一回ノ突撃ノ時機ニシテ大ニ  
不利ナルタル論ノ俟タス

一、下ニ付  
突撃ノ準備  
一、

大砲隊 (兵六) 前(推送) 歩兵第三隊隊員二由隊  
ノ砲隊ニ一者四眼鏡鏡使時並地雷ノ偵察ニ任シ其第一回ハ負傷  
ノ為ニ成ラカシム次ニ行ハルニ同ノ偵察ニ依リ鉄條網中ノ一部ニハ  
地雷ナキヲ確知セリ此際第一中隊ハ能ク掩護ノ任務ヲ達セル  
ニ機関銃火ヲ為下士卒ノ半ヲ失ヘリ

研 究

二兵ノ行ヒシ偵察ハ死ヲ恐レズ不屈不撓ナルモノハ假令死傷  
 続出スルモ能ク其目的ヲ達スルモノナルヲ知ル  
 歩兵第二中隊ノ特殊目的ノ為敵ニ近接シ敵機関銃ヲシテ其  
 極威ヲ逞リセシメタルハ歩兵自ラ機関銃ヲ破壊制ハスル兵器(歩兵  
 砲)又ハ其威力ヲ滅殺スル手段(砲)ヲ必要トスルヲ示ス  
 此間歩兵第一機関銃ハ決死隊ヲ撰拔シテ鉄條網ノ破壊ヲ企圖セ  
 シモ終ト成功セズ

研一 完

歩兵第一機関銃再度決死隊ノ失敗ハ昼間障目物破壊ノ至  
 難ナルヲ証スルモノニシテ砲火ヲ依ルカ特殊兵器材料(烟煤薬包  
 撃砲機関銃等)ヲ用ルヲ要シ歩兵ノ作業ハ夜時ニシテ  
 スルノ要ヲ示セルモノナリ即教程「砲兵」火力十分ナラス昼間攻撃  
 行ヒ難キ場合ニ於テハ已カラ得ズ夜時ヲ利用シ敵ニ近接シ歩  
 兵ヲ以テ障目物ノ破壊ヲ補足シタル後突撃ヲ実行シ一歩

一四  
其六、夜時、濃霧等ヲ利用シ、若シ我々掩護射撃ノ下ニ障物  
ヲ除去シ、突撃ヲ路ヲ開設シ、ト示サレタル所以ナリ

其二 突撃本部署

午後一時、甲分如伺ナル困難ナルモ、攻撃ヲスヘキ命令ヲ受テ、師団長  
ハ各隊ニ突撃ヲ實行ヲ促ス

右翼隊長ハ午後一時三十分、南山東北斜面、鉄條網ナキ道路ヨリ  
四列、側面縦隊ヲ以テ敵陣地ニ突撃ヲスルニ決ス

突撃ヲ命令ノ要旨左ノ如シ

一、旅団ハ千家屯方ヨリ南方ノ斜面ニテ、道路ヲ経テ敵陣地ニ突入  
シトス。但シ歩兵第十五聯隊ハ成リ得ル限り、其前面ノ鉄條網ヲ  
破壊シ、突入ス

二、隊備隊タルニ中隊ハ道路ノ兩側ニ位置シ、掩護射撃ヲス

三、第三聯隊ハ隊首ヲ隊首ニシテ、隊備隊ノ後ニシテ、突撃ヲスル他、本部署ス、本部署  
不明

止兵隊三聯隊長ハ午後二時二十分ニ於テ左ノ命令ヲ受テ  
命令ヲ下シ突撃隊ニ訓示ヲ與ヘ之ヲ督勵ス

其日午ニシテ敵隊ハ步兵第一聯隊ト共ニ町面ノ敵ヲ攻撃セリトス

二 第三第十中隊ハ突撃隊トナリ第一中隊ハ西方道路第...

中隊ハ東方道路ヨリ突進シ敵第一線散兵壕ニ突入シ敵

死逐ニシ其機関銃ヲ沈黙セシムルヲ以テハ

三 其他ハ悉ク第一線ニ配列シ射撃ヲ以テ突撃隊ノ進出ヲ

護スヘシ

以テ命令ヲ受テ第一大隊長ハ從來ノ如ク沈黙ニ鑑ミ小目標ヲ暴露

スルニ敵機関銃ノ掃射ヲ受ケ瞬時ニ此傷銃出スルヲ以テ寧ろ全

編ヲ拳子ヲ鉄條網ノ線ヲ前進シ同時ニ部隊ヲ道路ヨリ突進セ

ムトール考案ヲ具申セシニ容ルル所トラス

其兵隊十五聯隊ハ右翼隊命令ヲ受テ突撃隊前進ヲ命ス

其三 隣接部隊ノ情沈

一五

此討第四師団午後二時乃至三時、間西南窪劉家屯方向ヨリ  
突撃ヲセシモ成切セズ

左討共隊並第三師団モ今ヤ一步之前進シ難キ状況ニ在リ

其四 後護射撃部隊及砲兵隊後助

後護射撃ニ任スル歩兵部隊ハ午後四時ノ頃ヨリ射撃ヲ  
始シ砲兵隊又右翼隊ノ通報師団命令並軍參謀ヨリ傳達セ  
タレ令ヨリ歩兵突撃ヲ知リ午後二時十分ヨリ射撃ヲ開始シ  
後四時ヨリ全方ヨリ射撃ヲ敵共據ニ進味射ヲ行フ(此間砲兵第  
四隊隊ハ榴弾射撃ヲ行フ)

其五 突撃ヲ実行

午後四時十分突如トシテ歩兵第一第三隊隊正面ニ突撃ヲ開始セ  
ル

又兵第一隊隊ノ第一突撃隊(約一小隊)ハ四列側面縱隊ヲ以テ諸隊  
ノ強列ハテ後護射撃ヲ下ニテ突中南端ヨリ突進ス進出スルコト五六十

米ナラントシテ始ニ敵陣ニ遊ヒ右左ヲ往ハ鉄條網ニ連セトセシテ大  
 勢動カス可ラス統テ第二突撃隊隊約(甲隊)突撃ニ移ル其後  
 尾尚千家也高リルニ皆掃蕩セシ敵隊長ハ第三突撃隊隊約  
 一甲隊ニ最先頭ニ立テ前進シ然レトニ敵火猛烈副官斃レ旗  
 手傷キ他將校代ニ相踵キ傷テ遂ニ第四中隊ノ下士即軍旗  
 ヲ捧持前進ス而モ隊長長亦傷キ突撃隊ニ効ニ奏ス  
 第三突撃隊ノ突撃隊入銃砲ノ威ニ送テ突進ス而モ敵火熾盛第  
 四五名或ハ匍匐ニ鉄條網内ニ入り固執シ揚テ突撃セルモ目的ヲ  
 達セズ  
 歩兵第十五隊隊ハ此間ハ隊若クハ中隊躍進ニ依リ敵火ヲ得テ敵  
 前四〇米線ニ達シ第八中隊ノ下隊ハ敵前ニ至リ鉄條網線  
 ニ達セルモ爾後前進不能ス該線ニ行止ス  
 而シテ前進切界ハ隊ハ隊ヲ百示確進成レリ

時ニ午後五時過ナリ

一六

歩兵第一隊隊ハ建統三團ノ突撃ヲ敢行セリ殊ニ隊長ノ率先  
 挺身的行動ヲ示シテ其ノ能ク目前難局ニ對シ部下諸隊ノ攻撃  
 精神ヲ振起ス興ノ力アリ

ニ突撃ノ好機ニ投合シ敵ノ不意ニ出テタル時ハ(四)突進ニ得ルモ既  
 敵ノ注意ヲ喚起スル時ハ敵十米ヲ越テスニ頓挫ス其何レニ拘ラス  
 百米以上ニ突進スルハ充分ニ敵火ヲ制シテ敵ノ陣ヲ至難アルヲ見ル  
 此点ニ関シテハ砲兵協調員ニ起テ射撃ノ研究ヲ命ズ

第十一節 南山ノ占領  
 斯ノ如ク師団ノ決意企圖セシ突撃失敗ニ歸シニ已ムナク師団長ハ夜襲  
 ヲ以テ攻陷セシトノ意見ヲ具申スルニ至リ然レニ午後七時過敵ハ第  
 四師団方面ヨリ動搖ヲ始メ同師団突撃セルヲ以テ次ニ師団モ全線  
 突撃シ午後七時二十分南山ニ占領セリ



第十一節 師団戦闘一戦の教訓

師団歩兵約四中队半ヲ以テ守備セル敵ニ最初第一線七大隊  
ハ六千人ヲ以テ一撃敵前五乃至八百米ニ達シ次テ三大隊二千五  
百人増加ヲ以テ攻撃セルモ何等ノ進捗ヲ見ス午後四時頃砲兵  
三六門援助ノ下ニ行ハレタル突撃ニ全然失敗セリ其原因ヲ探  
スニ砲兵ノ敵歩兵銃ニ機関銃ノ利ハ効果路ニトナカリシラ主ト  
ス路軍自モ日本軍ノ砲撃ヲ討ニ守備兵ハ泰然トシテ射撃セ  
リハ標セリ而シテ其斯ノ如キニ至レル種適當ナラザリト重砲ヲ缺  
ルニテ殊ニ重砲ノ精神的威力ノ大ナルハ第四師団正於テ海軍ノ  
砲撃カ敵共動搖ヲ誘起セルヲ見ル之明ナリ然レトモ入前遊戦例ハ  
ハ少歩砲連繫ノ不備並ニ砲兵過度ノ銃一使用又其一回タリ其  
何ノ方面ニ於テモ機関銃ニ過マカレテ攻撃不成切ニ終レルモ  
シテ之等機関銃ノ利ハ三射ニ砲兵カ何等ノ貢獻スルナカリシハ砲兵指揮  
官進時此種目標ヲ突見ニ射撃スル能ハザルノ実証ナリ又列ル所

少砲歩調一致ヲ欲ケル等砲兵一部ハ歩兵分傷ハ必要ヲ認タシムル  
ハ誤ニ示ス砲兵一部ヲ直隷隊(總)歩兵部隊ニ配屬シ云々  
六ヤレアル此辺ノ消息ヲ語ルモカ

因ニ師団ノ砲兵ヲ本戦斗ニ使用セシ砲彈(對砲兵對歩兵)會敵線  
毎米ニセ七八發ナリ

右翼隊ハ戦斗最激烈ノ際此傷百令比一六、六%ニ對シ左翼隊ハ  
一三、〇%ナリ然ルニ右翼隊ハ能ク果敢戦手ヲ実行シ左翼隊ハ砲兵  
右カナル支援アルニ故ニスハ不行セリシハ一剛健ナル指揮ノ下ニ在ル勇氣  
精銳ノ軍隊ハ突撃成功ノ望ヲキ時ニ於テモ決死之ヲ敢行シ得軍  
隊行動慎重ニ過ケル時ハ有利ノ機会ニ逢ヒ前進ヲ渋滞スルヲ詔ス  
ルモノニテ指揮官ノ決心ト軍隊ノ銳氣トハ攻撃前進ヲ為重要ナル要  
素ニテ戰斗ノ勝利ハ全滅ヲ顧ミスルテ果敢断行スル勇氣ニ存  
シ軍隊ノ真價ハ勝利ヲ獲スル至情ニ在ルヲ深ク信セスニハ非ス  
三果敢ヲ決死の突撃手カ列ハ所失敗ニ終ル直接原因ハ障碍物ノ

攻撃隊形撰擇ノ自由ヲ有セス側面隊ニ突進シタルト守兵  
 カ其掩護物ニ依リ泰然精確ナル射撃ヲ継続セルニ依ル故ハ  
 如何ニ勇力取ノ軍隊ト虽モ障礙物ハ入環ホテ不十分ニ守  
 兵ニ對スル制止ノ効果及ハカルノ間一舉ニ突撃スルハ全ク不  
 可能ナリ茲  
 ニ一層自動火器ノ出現ヨリ愈々然ク即堅固ナル陣地ノ特  
 殊ハ障礙  
 得物ノ破壞守兵制止殊ニ側面隊ハ破壞ニ特殊ノ顧慮ヲ要  
 スルニ存ス抑々自動火器ノ未タ其數方カケル歐洲戰争前ニ於テハ  
 障礙物ノ破壞ハ歩兵ノ作業ニ依ルヲ主トシ砲兵ハ敵ヲ制止シ  
 掩護ニ任セリ故ニ砲兵ノ種類ニ於テモ榴彈ハ甚多シ然ルニ自動火器  
 ノ現出ハ全間歩兵ノ作業ヲ以テ障礙物ノ破壞ハ殆ト不可能ナ  
 ン之ヲ砲兵ノ任トスルニ至レリ  
 敵ヲ制止スル爲物質的成果ニ俟タトスルハ陣地ノ設備ニ蔽  
 倚ル並ニ側面的自動火器ノ用法ニ於テ至難ニ向ヒテ此種  
 射撃ヲ打破スルモノハ之レ精神ノ効果ニシテ後述南山陣地奪取

一 動機カ第四師団ニ面ニ於ケル敵ノ動搖ニ起因セルヲ見テ明  
 ナリ右ニ敵ニシテ精神的ニ制止セラレハ非シハ恐ラク本陣地ヲ  
 二 六日攻略スルハ不可能ナリトシテ  
 四 以テラ防者ヲ見地ヨリセハ其ノ陣地ノ防禦力ニ信頼シ泰然  
 自爾動カサレハ如何ナル騒動モ必ズ其ノ折スルヲ自信スルハ  
 手ニ存ス

第四章 第四師団 突入

第一節 突入前ノ情勢

第四師団ハ拂曉金州攻陥失敗ニヨリ全線金州西北ニ高地  
 ニ退却シ部隊ノ集結拂曉ニ及リ  
 此天敗雪辱ノ意義アル前進ハ拂曉正夜ヨリ金州西方平坦闊  
 濶地ニ開始セラレ猛烈心ヲ敵火ヲ目シテ猛進又猛進正午頃西南空  
 ノ敵機ニ追ヒ午後二時過一度大撃ヲモテ成功セズ師団長ハ午後三時  
 頃樂隊ヲ為砲火ヲ中止シ諸隊ノシテ現狀ニ維持セシム

研究

砲火効力充分ナラカレ場合夜暗ヲ利シテ敵ニ近接スルヲ必要ト

セニ例カ

此頃艦隊ハ金州灣ニ在リ赤城馬海汎等ヲ遠ク以テ敵陣ヲ側射  
シ効果大ナリ

第二節 突撃準備

午後六時十五分師団長ハ第一師団ニ進撃ニ決然前進スルヲ軍

命令ヲ受テ第一線ニ攻撃ヲ前進ヲ促ス

砲兵ハ四艦隊ハ午後五時四十五分師団命令ヲ受テ猛烈ナル援助射

撃ヲナス又第一線兩旅団長ハ援助射撃ヲ期シ砲兵ニ要求スル所ナリ

艦隊ハ有力ナル砲撃ヲ継続ス

第三節 突入

午後六時ヨリ附因其二線ヨリ前進ヲ開始ス(師団ニ右翼隊正

不該條網ヲシテ午後六時三十分第一線敵艦隊目ヲ前百五十米ニ

湯マレ敵兵稍動揺シ須臾ニシテ若干ノ歩兵退却ヲ始メニ破ラ得テ  
第一隊島道ニ午後七時十分歩兵第八隊隊第一中隊(長原田源  
太郎大尉)率先突入繞テ全線突進ニ午後七時半間南山一帯ヲ  
口領ス

露軍戦史ニ日ク

午後一時頃日本軍三四百歩ニ迫ルル頃ヨリ第五中隊(第九角  
面使附近)ニ敵艦砲射撃ヲ受テ守兵損害多大ナリニ為午後  
六時頃其守備セル散兵壕及南面堡ヲ捨テ溪谷中ニ隱遁ス  
信村第五中隊、損害一六四名中六七名ナリ此後全日本軍公突  
進ニ附近一帯、露軍撤退セリト

研究

一、露軍第五中隊カ四〇〇ノ損害ニテ此堅固ナル陣地ヲ捨テタルハ  
物質的損害ヨリ精神上ノ打撃ナルヲ其自白ニ依ルニ其主

ナル原因ハ我海軍ノ側射的砲撃等ニ。種及一五種口径ナリニハ明ナリ  
之ヲ生敵ヨリ推スルニ突撃ノ動機ハ敵ノ精神の打撃ヲ興フルニ依リ  
成起ス而シテ堅固ナル陣地ハ小銃小砲散弾ヲ以テ制止  
スル不可能ニシテ重砲珠ニ依リ威力大ナルヲ要求ス特ニ側射ハ其  
威力ヲ倍加ス

第五章 結論

本戰史研究ノ結論トシテ吾人ハ堅固ナル陣地ハ攻撃ハ充分ナル計  
画ハ準備ノ下ニ必勝ヲ期シ開始スルニ非ハハ中途中攻撃ヲ断又如何  
トモナス能ハワルニ至ルヘキト如何ニ物質的感力大ナル陣地ハ攻防モ  
敗中精神力ニシテ最後ノ五分時ノ抗堪力ニアルヲ示サントス  
附録第一

南山陣地露軍配備及陣地ノ施設

其一 配備

一 南山 大連附近ノ守備部隊

東組兵第四師團長ヲオリク少將

歩兵十六大隊

野砲五十四門

要塞砲七十七門

二直接南山陣地、身備ニ任セシ部隊

長 東組兵第五聯隊長トレケノコノ大佐

東組兵第五聯隊(第一中隊欠)及徒歩獅兵二隊

全 第十三聯隊第二第四中隊及徒歩獅兵一隊

全 第十四聯隊徒歩獅兵一隊

戰闘員 三二〇〇名 火砲五七門

機關銃 一〇挺

但金州城、東組兵第五聯隊混成中隊徒歩獅兵一隊及八七

密砲四ヲ以テ守備ス

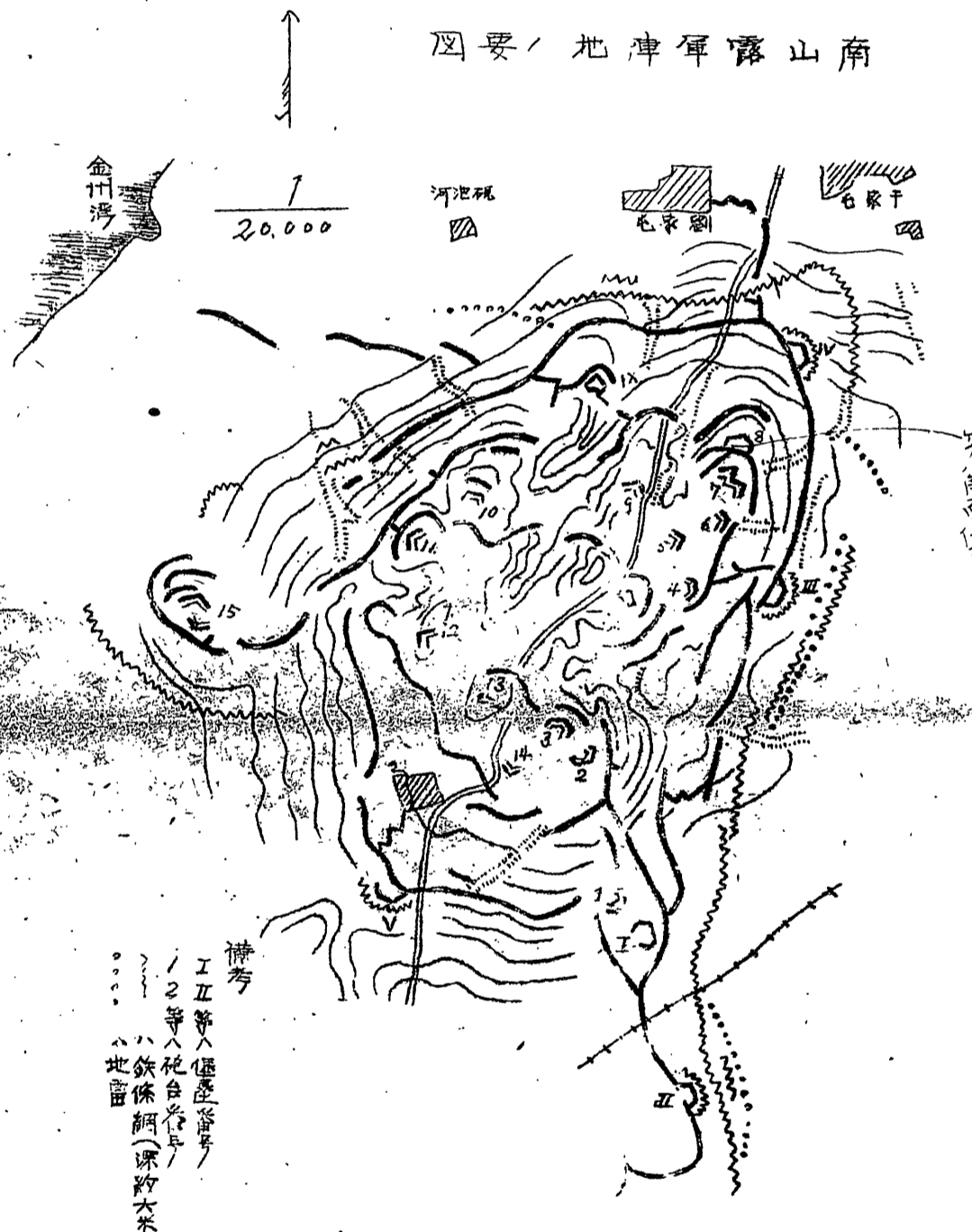
其二 陣地設備

別紙に要圖、如ク鉄條網ハ深ク約六米ナリ



圖要 / 地津軍露山南

附圖其一

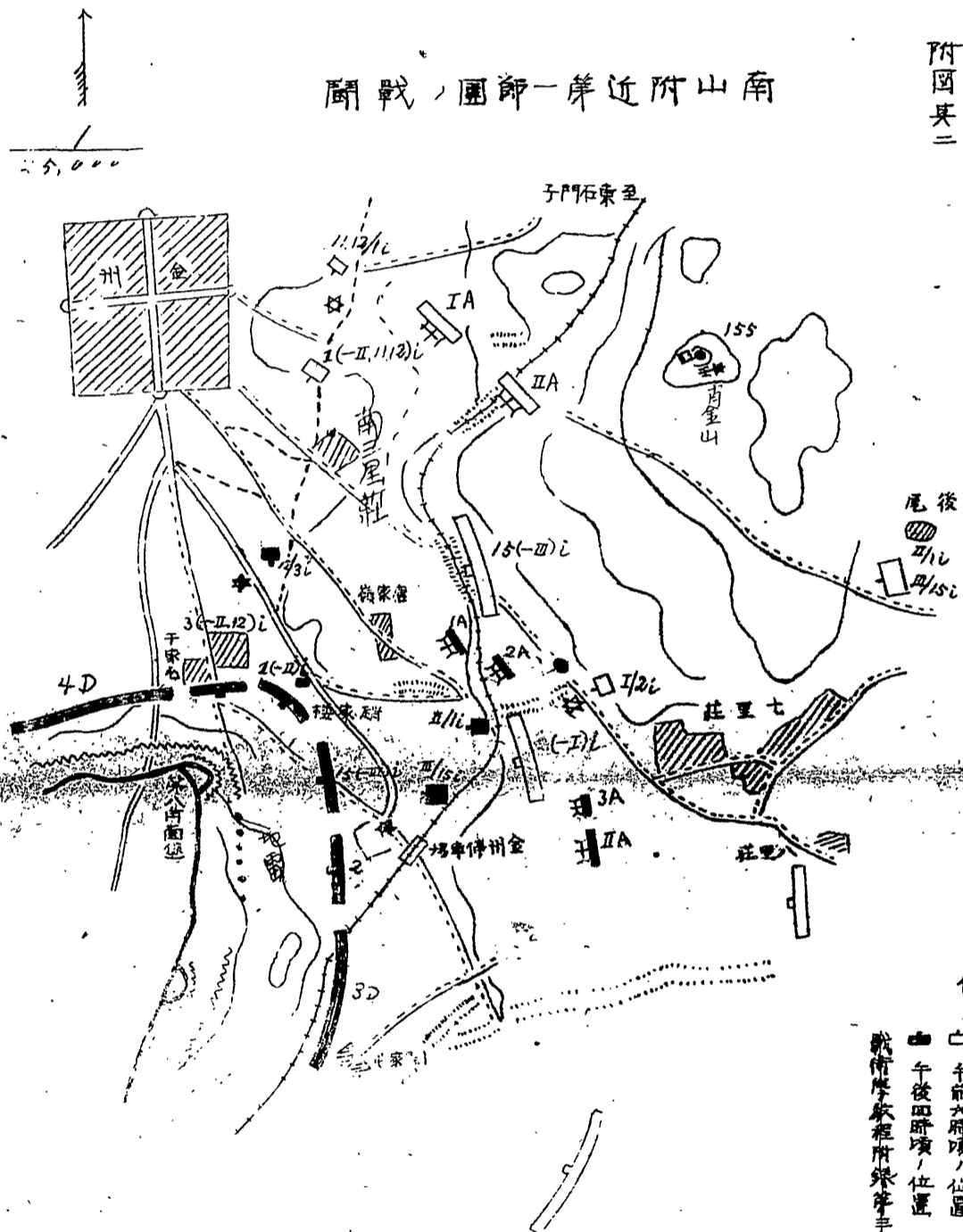


備考  
 一五等八區陸軍部  
 一、二等八砲台各長  
 一、八鉄條網(深約六米)  
 一、八地雷

1482

南附山近第一師團戰圖

附圖其三



1433